

年長者研修大学校・北九州穴生ドーム 指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時 令和6年10月10日(木) 13:30~14:50
- 2 場 所 北九州市役所本庁舎7階 72会議室
- 3 出席者 検討会構成員：島田構成員、恒吉構成員、中尾構成員、
原田構成員、山中構成員
事務局：保健福祉局長寿社会対策課長、生涯現役推進係長、
担当職員

4 会議内容

- 議事次第、選定基準、採点上の注意事項等について事務局より説明
- 構成員の互選により、座長を選出

○ プレゼン（「北九州市社会福祉協議会」より提案内容を説明）

■ 質疑応答（「北九州市社会福祉協議会」との質疑応答）

（構成員） 地域共生社会に向けた活動者の育成について、現行の評価の中では機能が少し弱いとの評価を受けているが、対策はあるのか。

また、原因を分析できているのか。

（応募団体） 毎年、修了生の地域活動等の動向調査を実施している。「地域のボランティア活動に参加していますか？」という問いに対し、約50%が「積極的に参加している」、「なるべく参加している」、約20%が「時々参加している」と回答しており、現状として全体の72%が何らかの活動に参加している。

「時々参加している」方を定期的・継続的な参加へつなげられれば、参加率を上げられると考えている。参加したボランティア活動では半数以上が「まちづくりの活動」と回答し、地域に関心は高いが、参加しない理由として「活動の情報を入手する術がない」が多く挙げられた。情報提供のあり方等が一番の問題と分析している。

（構成員） 新たな取り組みとして「地域コンシェルジュの導入」とあるが、資格の認定について具体的な基準はあるのか。

（応募団体） 地域ごとに多様な課題があるため、地域の人材確保といっても、修了生がいきなり地域へ参入しづらい等の問題がある。現在、社会福祉協議会では、市民センター等に地域生活支援相談員を配置し、地域の困りごとを見つけ、支援する事業を行っている。まずはそこで地域との関わり方や課題の発見・解決の方法を学んだ後に、地元の市民センターで活躍するという流れを考えている。養成の際は名誉

学長である市長から認定をいただければ、活動者のやる気につながり、また地域にも入りやすくなると考えている。

(構成員) 施設の認知度が課題とあったが、ぜひ多くの方に知ってもらい、利用しやすい学びの場を多く提供してほしい。それについての計画を伺いたい。

(応募団体) 現在入学者の80%がリピーターで、新人の確保が課題である。今年度の募集時には、Web申込やポスティング、コース内容の見直し等の取組みにより新規研修生が増加した。今後も高齢者の学習ニーズを注視し、新たな研修生の入学につながるよう努力したい。

(構成員) 数値目標について、穴生ドームはかなりの利用者増加を見込んでいるが、その根拠と具体的な策があれば伺いたい。

(応募団体) 令和5年度、穴生ドームはワクチン接種会場として利用していたため長期閉鎖していたが、11~3月の5ヵ月間で25,471名の利用となった。平成6年度に開設し、ピーク時には年間13万人が利用しており、コロナ前の水準である10万人を目標と設定した。利用者に気持ちよく利用してもらえるよう、職員の教育や利用環境の整備を行いたいと考えている。

(構成員) 4点質問で、まず1つ目は、高齢化や研修生の固定化等の課題について。対策として広報の充実を行っているとのことだが、そこに至った経緯を伺いたい。

2つ目は、継続の指定管理応募となるが、北九州市社会福祉協議会が受託する強みは何か説明いただきたい。

3つ目は運営改善委員会について。他団体との連携の際、講座で紹介するだけでなく、意見交換の場も必要ではないか。外部の意見を聞く際、運営改善委員会以外の工夫があれば伺いたい。

4つ目は、難聴や老眼など健康状態の悪化や、障害のある方が入学した際の運営の工夫について、現状の取組みや今後の考えがあれば説明いただきたい。

(応募団体) 社会福祉協議会は地域の生活課題を解決するため、住民と連携して事業を行ってきた。指定管理を受託することで、元気で地域のために活動したい高齢者を地域活動につなげ、さらに地域の力を発揮させることで、地域の担い手の確保等の課題解決に貢献できる。

地域活動の場の提供や情報発信の話があったが、当団体のボランティア活動センター等の情報収集を行っている所につなげることで、活動の場をつくることにつながると考えている。

運営改善委員会については、現在も、高齢者が学ぶ中でどうしたら地域活動等に結びつくか委員にご意見をいただいているが、幅広く施設のことを知っていただきたく、今年から構成メンバーを変更

し、身体障害者福祉協会にも入っていただいている。

老化も含めた障害のある方への対応について、難聴や老眼の方が入学された際は周囲の研修生へお知らせし、障害に配慮した対応を行うことで、受け入れやすい体制づくりを実施している。

○ 構成員は、提案概要のヒアリングと質疑応答を受け、提案についての評価を行い、得点を記入し発表

○ 構成員による意見交換

(構成員) 応募団体の会計状況が妥当か伺いたい。

(構成員) 財務基盤については特に問題ないと考えている。

(構成員) 広報のあり方について、周知の乖離が激しく、施設のことを全く知らない方もいる。地域づくりのため、より入学者を増やす具体策の提案に期待を込めて、(6) 平等利用と(7) 社会・地域貢献については厳しく2をつけた。決して応募団体が信頼が置けないということではない。

(構成員) 財政基盤についてはこれ以上ないと思っており、高評価をつけた。地域貢献については随分前から提示はしているが、利用者が地域のリーダーになるために入学しておらず、そのような状況の中で講座等の内容は工夫をしていると感じた。

(構成員) 一番評価しているのは、18年継続しているということ。これは何よりも信頼が置けるものだと思う。利用者としての立場から質問をしたが、PRやSNS発信など多くの方に知ってもらう努力をされているため、高評価となった。

(構成員) 継続出来ていることは、非常な大きな実績であり、信頼だと思う。指定管理期間中は数回評価を受けるが、過去の評価でも利用者満足度が高く、高く評価すべきと感じた。

(構成員) 要求水準を満たしており、全て3評価とした。たしかに財政基盤がしっかりしているが、NPO法人や社会福祉協議会だからといって加点をする必要はないと個人的には考え、やや厳しめの視点で採点を行い、問題ないと判断したため3をつけた。提案内容についても、現行と変わらない仕様で公募したのであれば4をつけた箇所もあるが、今回は仕様書等の内容見直し(地域人材

育成・就業促進・DX化対応等に係る講座実施など)が行われて公募をされており、そこをふまえると新規提案の部分が少し弱いと感じ、全て3の評価となった。

○ 各構成員に意見の修正の機会を与えた後、採点結果を取りまとめ、検討会を終了した。

(構成員) 適正性の(5)平等利用等、(6)社会・地域貢献について、期待を込めて2としていたが、要求水準は満たしていると考えているのでどちらも3に修正する。